

富山市八尾町本法寺蔵「法華経曼荼羅図」について (要旨)

原 口 志津子*

本講演では、富山市八尾町(旧・婦負郡八尾町)の長松山本法寺の蔵する「法華経曼荼羅図」についての紹介を行い、日本中世における『法華経』受容の一端を明らかにした。

本作は以下のような特徴をもっている。

- ① 法華経二十八品の内容すべてを描く説話絵で「法華経変相」とよぶべきものである。
- ② 22幅の連作掛幅であり、かつそれぞれが縦約190cm、横約127cmの大幅である。
- ③ 所蔵寺院・本法寺は、新潟県三条市・長久山本成寺を総本山とする法華宗(陣門流)別院だが、本作は海底より出現との伝承がある。
- ④ 画中に嘉暦元年から3年(1326~1328)の制作年が明記されている。
- ⑤ 「古表具裏書」等により修復、補作の事情が明らかである。明応6年(1497)、寛文12年(1672)、昭和41年(1966)(各々完成年)に大修復が行われている。また延宝7年(1679)に富山藩第二代藩主前田正甫が、序品を補作させている。
- ⑥ 明治33年(1900)に国宝指定、昭和25年(1950)に21幅が重要文化財指定、第一幅序品のみ富山市指定文化財となっている。
- ⑦ 毎年8月6日に風入法要が行われる。
- ⑧ 22幅のうち13幅が迹門にあてられており、迹門重視である。
- ⑨ 図像、構成の点で前代の大画面絵画を継承する。ただし、画風は水墨画の技法も加味した鎌倉時代末期の様式である。
- ⑩ 第一幅を除くすべてに「勧進僧浄信」の記名がある。講演者は、元徳3年(1331)には播磨国福泊津の勧進上人で福泊嶋の関務を取り仕切った律僧であり、暦応3年(1340)時には法勝寺末寺・一条戻橋寺恩徳院の長老である人物と推測してい

る。

⑪ 『法華経』本文のみならず、『妙法蓮華経文句』等の注釈書に典拠をもつ図像がある。

⑫ 和文化された『法華経』経釈を反映した図像がある。『草案集』『花文集』等に跡をとどめる音声世界の豊かな所産であり、後代の『釈迦の本地』、『法華直談書』にも関係する図像がある。

⑬ 制作者の属する集団あるいは当時の世相を反映する図像がある。

本講演では、以上の説明の後、まず第12幅「妙法蓮華経提婆達多品第十二」中の『法華経』本説にはない折檻する仙人の図像を解説した。山崎誠¹⁾、本井牧子²⁾の研究により『草案集』第五巻、『花文集』第三提婆品に由来する図像であることが確認できる。

次いで、第6幅「妙法蓮華経授記品第六」の摩訶迦葉の前世として語られる菜を摘む女と第12幅「妙法蓮華経提婆達多品第十二」の「変成男子」の図像について考察を行った³⁾。

最後に、賽の河原の先駆的図像や湯屋の図像、鹿狩りの図像を取り上げ、補筆補彩の問題と図像解釈における図像学的コード(服飾や庭園図像、画面における位置関係など)に触れた。

(1) 山崎誠「草案集とその研究」(『国文学研究資料館紀要』第31号、2005年)

(2) 本井牧子『『釈迦の本地』とその淵源—『法華経』の仙人給仕をめぐる』(石川透編『中世文学隣接諸学9 中世の物語と絵画』(竹林舎、2013年))

(3) 拙稿「本法寺所蔵『法華経曼荼羅』と女性の信仰—一芹を摘む女と変成男子—」(佐野みどり・加須屋誠・藤原重雄編『中世絵画のマトリックスII』青簡舎、2014年)

*富山県立大学教授